

夏油高原スキー場の将来構想について

令和4年5月27日市議会全員協議会
商工部商業観光課



1 経緯

- 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約が令和5年6月30日で満了するに当たり、当該契約に基づいて満了日の2年前である令和3年6月30日に運営継続に係る意思表示がなされ、夏油高原スキー場の継続に向け必要な検討・整理を実施した。

2 運営方法の検証

- 公設民営方式の運営について、経済波及効果とこれまでの投入経費及び今後の経費による費用対効果を分析。(12/17議会説明)
[検証結果] ・これまでの投入経費による分析では、地域経済にもたらした効果は大きく、観光施設として重要な役割を果たしたといえる。
 - 今後の投入経費見込による分析では、施設の老朽化により数値は低下するものの地域経済にもたらす効果は大きいと見込まれ、今後も必要不可欠な観光施設といえる。

3 市民等の意見

- 夏油高原スキー場の運営について関係団体との意見交換及びアンケート(令和3年11月11日～12月16日実施・別紙1参照)
- 北上市議会(産業建設常任委員会)の観光振興に関する提言(令和4年3月25日受理・別紙1参照)
- 夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラムの出演者の提言及び参加者のアンケート(令和4年3月27日開催・別紙1参照)
- 夏油高原スキー場運営評価委員会の提言及び意見(令和4年3月28日開催・別紙1参照)

4 スキー場の価値・必要性

- 経済波及効果は年間10億円**と推定され、**雇用創出やスポーツの振興の場**としても重要な役割を果たしている。(別紙3参照)
- 世界に誇る上質な**パウダースノー**と**日本屈指の積雪量は国内有数の観光資源**であり、世界的に温暖化が進む中その**価値は高まっている**。
- 「豪雪・夏油」に対する**国内外の認知度も高まっており**、北上市にとって、**シティプロモーションの重要なブランド**となっている。
- 7シーズンの数値を見れば、**県内で唯一入込を伸ばしているスキー場**であり、取り組みの積み重ねが成果として表れている。(別紙2参照)

5 これまでの経過と今後の予定

令和3年6月30日	㈱北日本リゾートから「夏油高原スキー場管理運営事業継続届出書」提出	令和4年5月	夏油高原スキー場の将来構想について説明(市議会全員協議会) 市民向け周知
令和3年7月～	施設の維持管理等の計画協議	令和4年6月	北上市夏油高原スキー場事業者選考委員会
令和3年10月	経済波及効果の公表	令和4年7月	次期運営事業者の決定 施設の使用貸借仮契約
令和3年10月19日	夏油高原スキー場の運営について説明(市議会全員協議会)	令和4年9月	施設の使用貸借の議決
令和3年11月～12月	関係団体等との意見交換会	令和4年10月	施設の維持管理計画策定
令和3年12月17日	夏油高原スキー場の将来構想の構築に向けた基礎資料について説明(市議会全員協議会)		
令和4年3月25日	市議会(産業建設常任委員会)の観光振興に関する提言		
令和4年3月27日	夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラム		
令和4年3月28日	令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会		

1 市民等の意見（主な意見・アンケート結果）

(1)関係団体との意見交換・アンケート

【良い点】

- ・センター施設、温泉施設の充実
- ・キャンプ場の整備・紅葉まつりの開催運営

【課題・今後の運営に求めること】

- ・地域団体等との連携強化
- ・グリーンシーズンのアクティビティ拡充
- ・料金の見直し・合宿誘致の促進
- ・宿泊施設の拡充・音楽イベント等の開催

【10年後とその先の将来に求める姿、その他の主な意見】

- <10年後>・施設規模は現状の維持を望む。
- ・グリーンシーズンコンテンツの充実、通年型の観光施設を望む。
- ・場内又は敷地内に宿泊施設の整備を望む。
- <将来>・リゾート化や施設規模拡大は、経営面やスキー場を取り巻く環境等に応じて判断するべき。
- ・今後SDGs、環境配慮を意識した運営が求められる。
- <その他>・地域の団体等と連携し子供たちがスキーに触れる機会を創ってほしい。
- ・地元の利用促進、市民の料金割引等を望む。

(2)夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラム意見・アンケート

【課題・今後の運営に求めること】

- ・合宿誘致の促進
- ・地域団体等との連携強化
- ・キャンプ場営業、宿泊施設の拡充

【今後に求める姿、その他の主な意見等】

- ・リゾート化の推進のため、宿泊施設の拡充を望む。
- ・環境と開発を両立する仕組みづくり、SDGsを意識した取り組みが求められる。
- ・スポーツイベントやトレーニングの場として活用し、グリーンシーズンの拡充を望む。
- ・地域との連携強化等によるスキー以外の魅力づくりをしてほしい。

(3)北上市議会(産業建設常任委員会)の提言

【課題】

- ・スキー場と観光コンベンション協会との連携が不明確である。
- ・国有林買取りによる通年リゾート開発も必要だが、リスクもあり慎重に議論すべき。
- ・施設が老朽化しており、営業中の故障等は避けなければならない。

【提言・意見】

- ・積雪量が豊富であり、早い時期からのスキー客が見込める。
- ・夏油高原エリアを活用し、環境の保全に十分考慮しつつ、オールシーズンのイベント実施や施設活用の拡大に努めること。
- ・国有林を買い取った場合のメリット・デメリットを分析明示すべきである。
- ・施設の老朽化対策や更新については計画的に実施していく必要があるが、費用対効果をきちんと検証すべき。

(4)令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会の提言・意見

【課題】

- ・施設の老朽化は喫緊の課題である。
- ・市と運営事業者の連携を高めつつ取り組んでいくこと。
- ・グリーンシーズンの取り組みは引き続き注力いただきたい。
- ・リゾート化に向けて十分な検討が必要である。

【提言・意見】

- ・スキー場の運営について、これまで取り組んできた積み重ねが成果として表れており、高く評価する。
- ・世界的に温暖化が進む中で、豊富な積雪を誇る夏油高原スキー場の価値は高まっている。
- ・今後のグリーンシーズンの拡充を期待する。
- ・施設の老朽化への対応やリゾート化に向けた検討について、市と運営事業者の連携した取り組みを期待する。

2 スキー場の価値・必要性

(1) 県内スキー場入込推移(※「いわて観光統計 スキー客の入込動向(令和3年シーズン)」から引用)

	H26 2013-14	H27 2014-15	H28 2015-16	H29 2016-17	H30 2017-18	H31 2018-19	R2 2019-20	H26とR2比較		
								増加率	増減	
県内の 主な スキー 場	八幡平リ・下倉	25,003	26,872	20,759	22,623	20,435	20,147	20,558	82%	△4,445
	八幡平リ・パノラマ	62,811	59,853	44,398	46,447	47,697	45,594	44,899	71%	△17,912
	安比高原	471,639	475,427	318,495	330,792	338,005	377,828	362,688	77%	△108,951
	網張温泉	51,666	53,060	42,330	51,897	51,783	45,629	45,832	89%	△5,834
	雫石	54,871	53,937	30,992	46,858	60,549	57,455	54,524	99%	△347
	岩手高原スノリゾ	75,498	75,470	57,278	61,257	71,344	59,414	44,456	59%	△31,042
	奥中山高原	56,677	59,060	46,250	57,360	61,960	66,840	47,359	84%	△9,318
	夏油高原	73,637	70,741	110,720	110,544	106,289	110,587	111,039	151%	37,402
主なスキー場 計	871,802	874,420	671,222	727,778	758,062	783,494	731,355	84%	△140,447	
その他スキー場 計	131,329	121,503	90,730	77,933	104,430	88,613	76,558	58%	△54,771	
県合計	1,003,131	995,923	761,952	805,711	862,492	872,107	807,913	81%	△195,218	

3 運営方法の検証（費用対効果）

【公設民営期間(H25～R2)の分析】

平成25～令和2年度	入込数 (冬季シーズン)	経済波及効果(B)	税収効果見込	歳出経費	廃止コスト	投入コスト(C) (歳出経費+廃止コスト-税収見込)	B/C
8年間の合計	730,820人	80億7,400万円	1億4,500万円	5億6,500万円	13億8,500万円	19億3,200万円	4.179
平均	91,353人	10億930万円	1,810万円	7,070万円	1億7,320万円	2億4,150万円	

【今後の運営期間(R5～R14)の分析】

令和5～14年度	経済波及効果見込(B)	税収効果見込	歳出経費見込	廃止コスト	投入コスト見込(c)	B/C
10年間の合計	100億9,300万円	1億8,100万円	14億3,000万円	17億3,200万円	29億8,100万円	3.386
平均	10億930万円	1,810万円	1億4,300万円	1億7,320万円	2億9,810万円	

4 冬季の雇用・ウィンタースポーツの振興

(1) 冬季の雇用者数

【市民の雇用数】	社員	冬季従業員	アルバイト	合計
2017-18シーズン	11名	38名	41名	90名
2018-19シーズン	11名	32名	37名	80名
2019-20シーズン	12名	30名	24名	66名

※市外からの雇用者を含めると各シーズン約100名程度を雇用

(2) ウィンタースポーツの振興

・県内小学生(全学校)への無料リフト券配布
[岩手県:298校、約58,000枚・(秋田県:178校、約40,000枚)]

・市内小学校のスキー教室の受け入れ
[H30:15校、R1:15校、R2:10校/市内17校]

・市スキー協会等が開催するスキー大会等の会場利用や運営協力